

農山漁村の役割探る

松山で大会 地域おこし活動報告



アジサイを通じた地域おこしを報告した
新宮あじさいグループの大西敬志郎会長

＝4日午後、松山市上野町

農業の役割や食の大切さへの理解を深める県農山漁村ふるさとづくり推進大会が4日、松山市上野町の県

生涯学習センターであった。地元資源を生かした地域おこし活動が報告され、参加者が熱心に耳を傾けた。

農林漁業の担い手女性らで構成し、食農教育や6次産業化に取り組む県農山漁村生活研究協議会（飛鷹恵子会長、1451人）と県の主催で41回目。今回は会員ら約500人が参加した。

新宮あじさいグループ（四国中央市）の大西敬志郎会長は、1990年から開催している「あじさい祭り」について報告し、「当初来場者が2千人だったのが、今では1万人にまで増えた。整備した『あじさいの里』は集落の誇り、村の絆になっている」と紹介した。

崇城大薬学部（熊本市）の村上光太郎特任教授が「農業は薬草栽培」と題し

て基調講演。「料理は健康素材を食べるために生まれた。苦い、渋い、酸っぱいものは薬効がある」とし、フキノトウなどの調理方法を参加者に指南した。

（和泉太）

優良生活研究組織3団体の表彰もあった。受賞団体は次の通り。

【優良農山漁村生活研究組織知事表彰】土居農村創造女性塾（四国中央）▽川之内グループ（久万高原）▽程内こんにやくいもグループ（内子）